

終末期を自宅で過ごす人の スピリチュアルニーズ

テキストマイニングと質的記述研究分析の比較

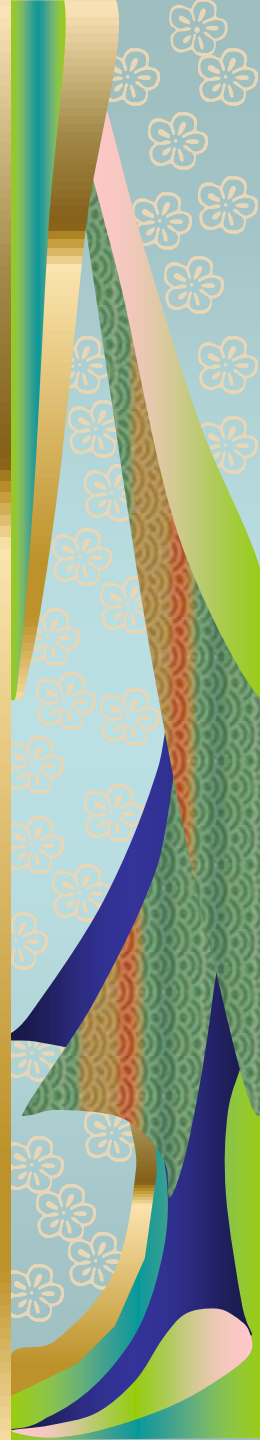
愛知医科大学看護学部

佐々木裕子

指導教員

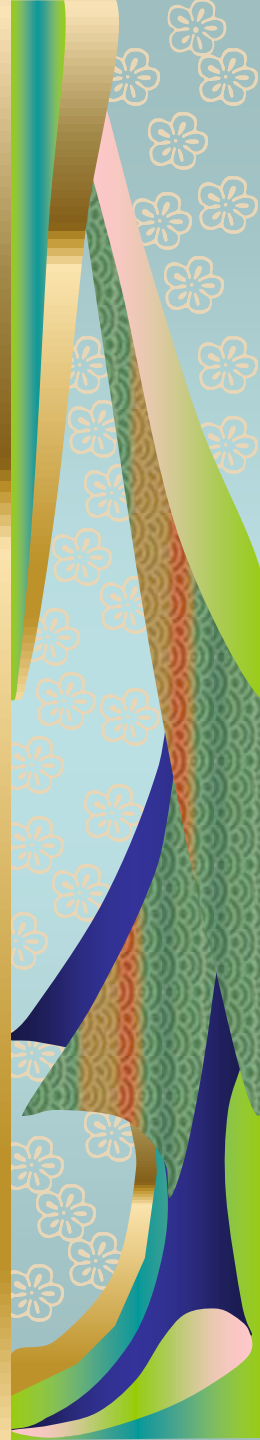
人間環境大学大学院看護学研究科国際看護学教授

西川まり子



目次

- 研究の背景
- 研究目的
- 用語の定義
- 分析方法
- 結果
- 考察
- 限界と課題
- 結論
- 引用文献



研究の背景：社会状況

■ 2018年 日本人死亡者136万人(在宅死13%、18万人)

2040年 死亡者推計 167万人へと増加

←49万人の終末期ケアが困難

■ 全国調査(2018年)

■ 自宅で最期まで過ごしたいニーズ:60%

■ 自宅で最期まで過ごせている人:13%

人生最期の
希望が
叶えられて
いない!

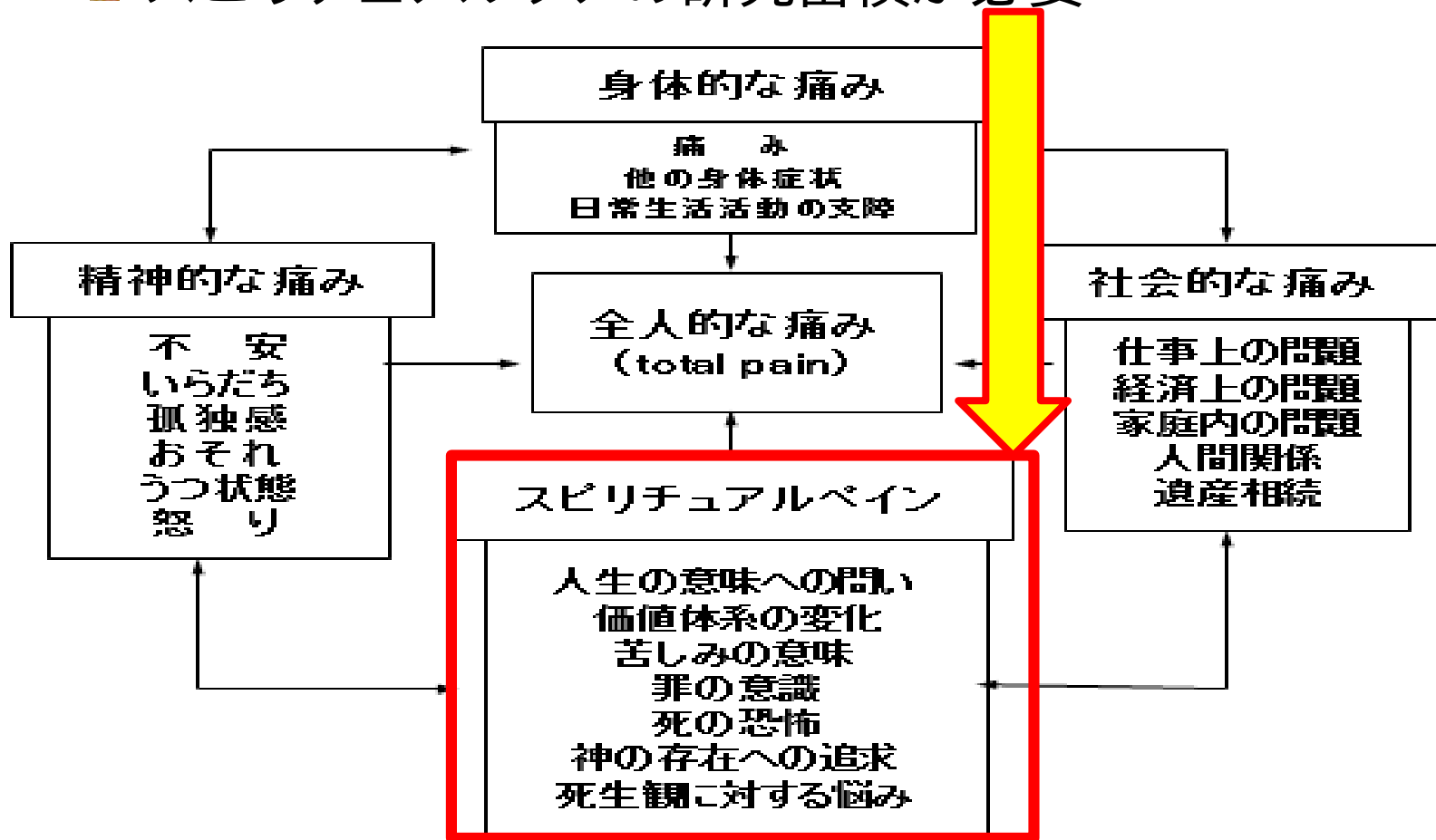
■ 厚生労働省の目標(2040年まで)

■ 在宅死40%、66万人を目指して

サービス提供体制 整備

研究の背景：先行研究①

- 終末期における全人的なニーズとケアに関する研究
 - 身体面・精神面について進められている
 - スピリチュアルケアの研究蓄積が必要



研究の背景：先行研究②

■ 終末期における全人的なニーズとケアに関する研究

■ スピリチュアルケアが進んでいない状況がある

- 理由①: spiritualという言葉に適切な和訳がない
- 理由②: 医療にスピリチュアルケアが求められてこなかった
- 理由③: スピリチュアルケアの人材育成機関がない

■ スピリチュアルケアの先行研究

- 緩和ケア病棟入院がん患者、施設入所高齢者を対象
- 訪問看護師がスピリチュアルケアを困難と感じている
- 自宅で終末期を過ごす人のスピリチュアルニーズ・ケア研究が見あたらない

■ 在宅終末期ケアの中核を担う

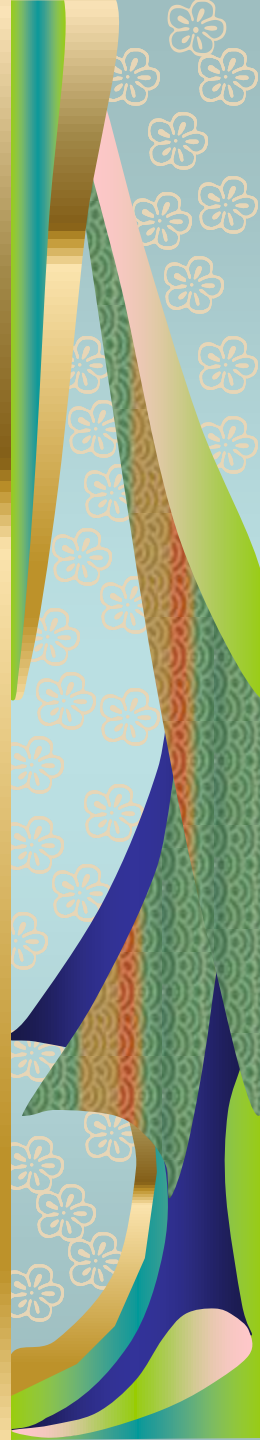
訪問看護において、スピリチュアルニーズを理解しケアに活かせる研究が必要

スピリチュアルペイン

人生の意味への問い
価値体系の変化
苦しみの意味
罪の意識
死の恐怖
神の存在への追求
死生観に対する悩み

研究目的

■ 自宅で終末期を生きる訪問看護利用者の質的記述研究で導き出した研究結果と、テキストマイニングを用いて導き出した研究結果を比較した。その論理性から文章分析ソフトのテキストマイニング（Text Mining Studio）を用いて、研究参加者の表現の種類と出現回数およびことばネットワークを分析し、2つの分析方法による一致と異なりの意味を検討することである



用語の定義

■ 終末期

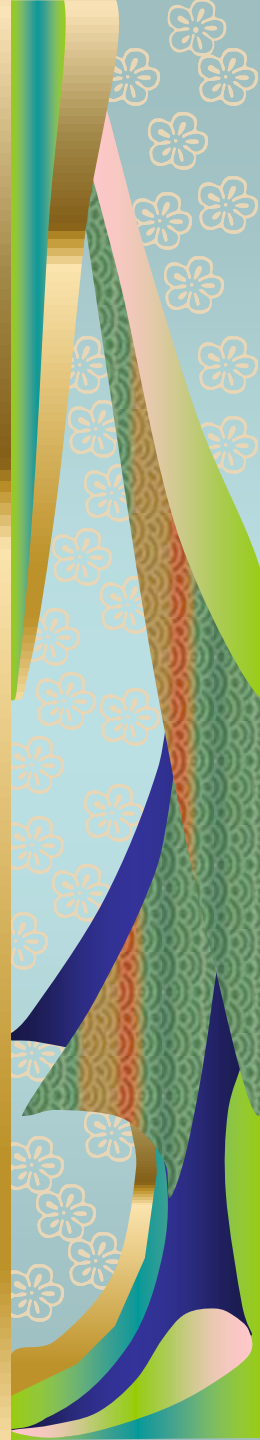
- 病いや老いにより余命半年程度と伝えられ、本人が認識している時期。

■ 在宅終末期ケア

- 病いや老いにより人が人生を終える時期に、最期までその人らしい生と死を支え、生と死を見送った家族が生きることを支えることを在宅で行う看護（日本エンド・オブ・ライフケア学会の主旨，2016）。

■ スピリチュアルニーズ

- 人生の意味への問いや、価値体系の変化および苦しみの意味や生きる意味をもつことへの希求、罪の意識や死への恐怖および死生観に対する悩みと応えの求め（淀川キリスト教病院ホスピス編を参考，2001）



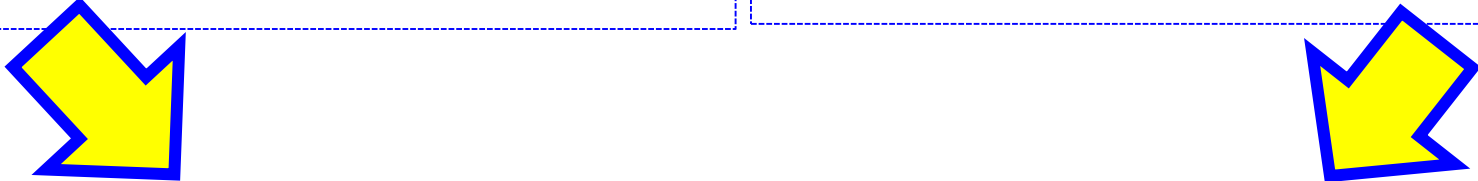
分析方法

■ 終末期を自宅で過ごしている人のスピリチュアルニーズとして、インタビューで得た生データを、TextマイニングStudio Oにて分析

■ 単語頻度分析

■ ことばネットワーク

■ 終末期を自宅で過ごしている人のスピリチュアルニーズとして、質的帰納法で分析



テキストマイニングで分析した結果と
質的記述的研究で分析した結果を
比較する

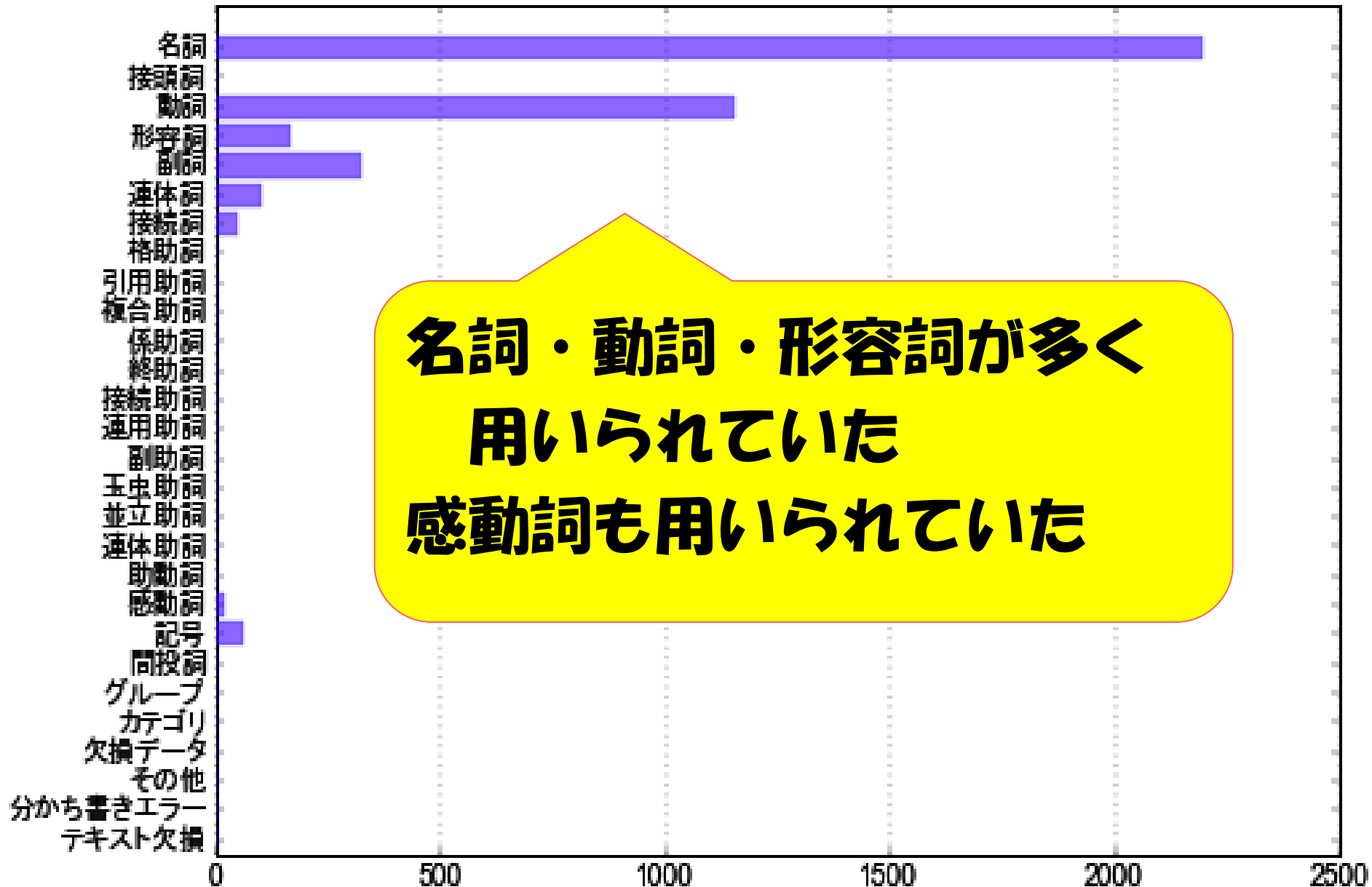
結果1：基本情報①

1	文章量	306
2	単語数	4071
3	単語の種別	1461

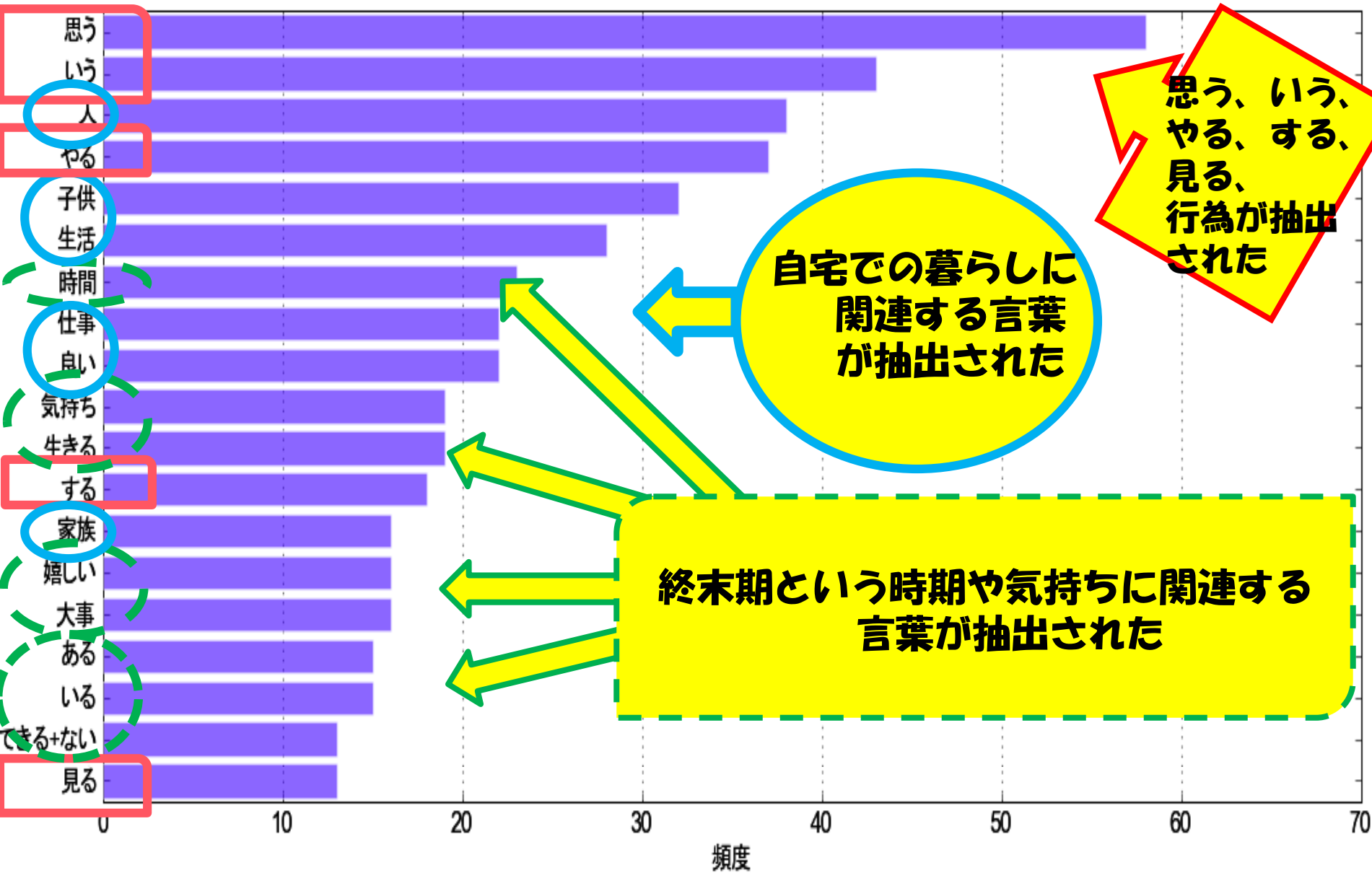
	品詞	出現回数
1	名詞	2196
2	動詞	1154
3	形容詞	165
4	副詞	324
5	連体詞	102
6	接続詞	50
7	引用助詞	4
8	感動詞	17

名詞・動詞・副詞・形容詞が多く用いられた

結果1: 基本情報②



結果2: 単語頻度分析

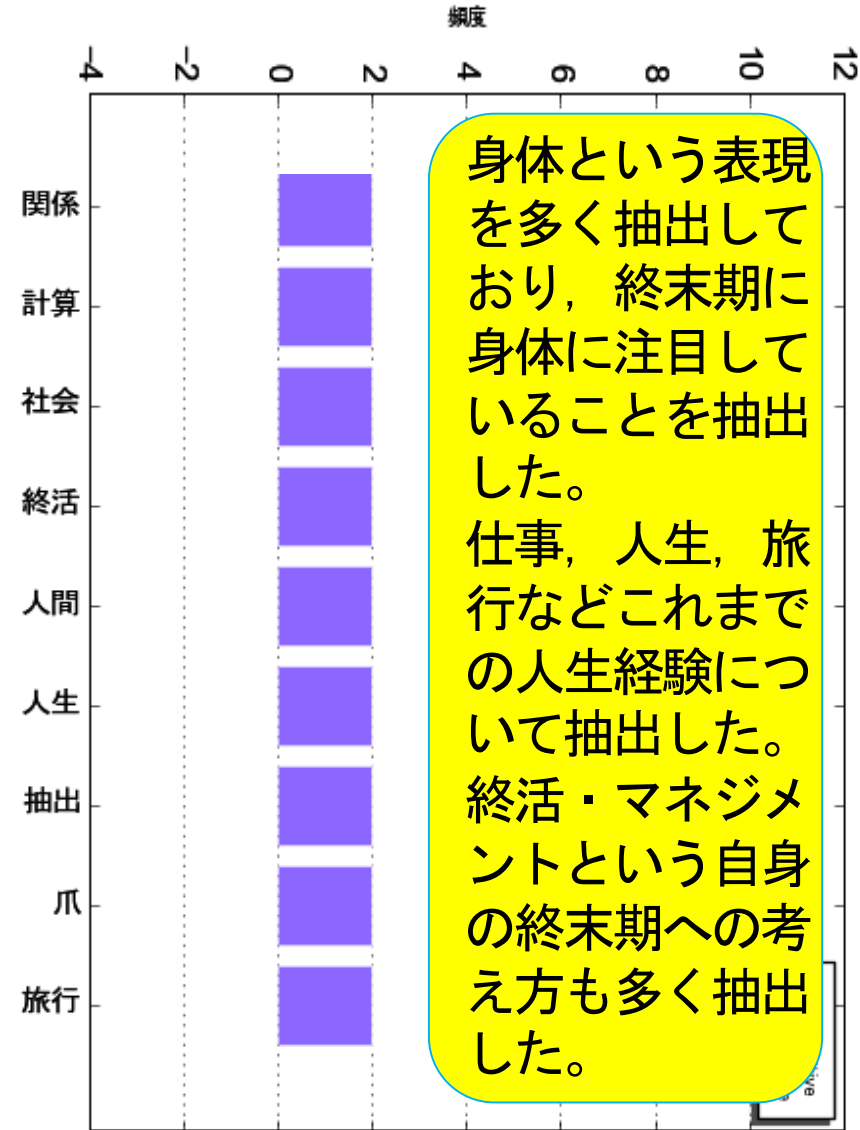
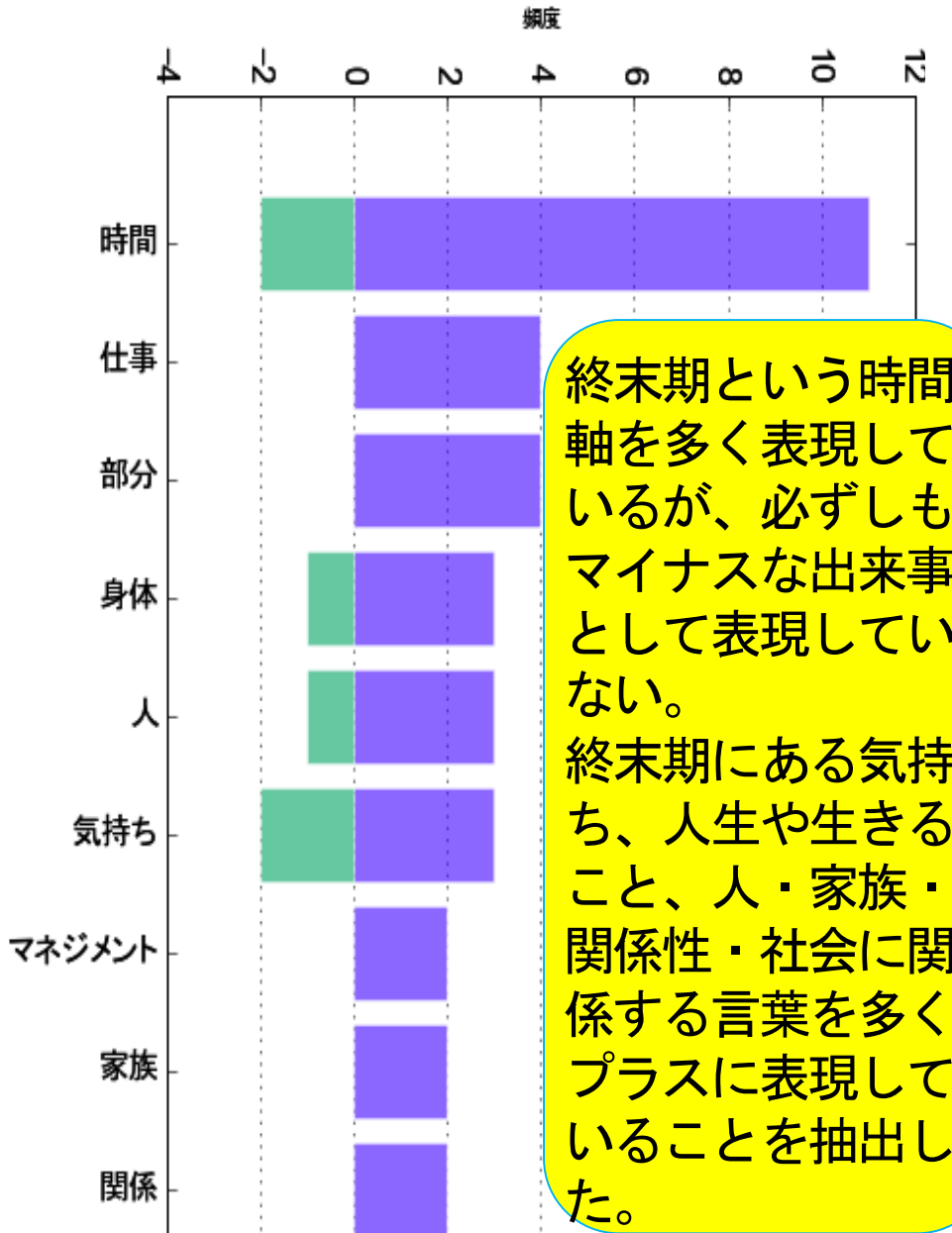


自宅での暮らしに関連する言葉が抽出された

終末期という時期や気持ちに関連する言葉が抽出された

思う、いう、やる、する、見る、行為が抽出された

結果3: 評判抽出①; 好評語ランキング



結果3：評判抽出②；不評ランキング

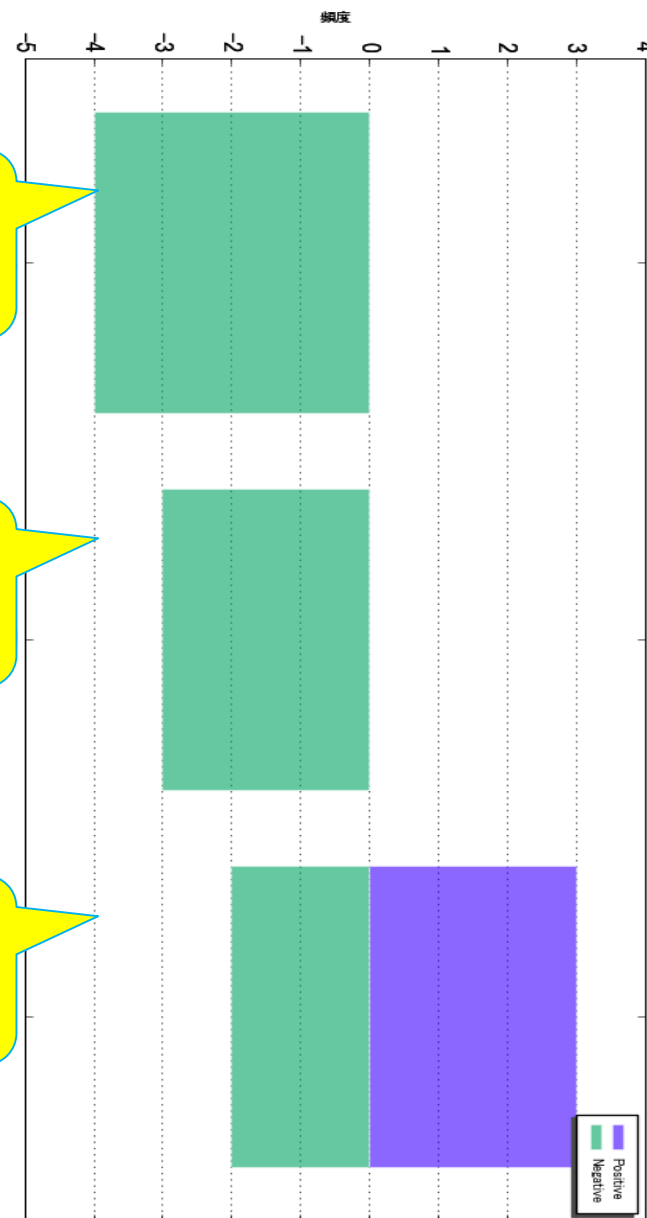
終末期という状況から、体験している気持ち、病気そのものや体調を多く表現していた。

気持ちについては、好評語でも抽出されており、終末期の気持ちが、プラスでもマイナスでも体験されていることが表現されていることを抽出した。

病気

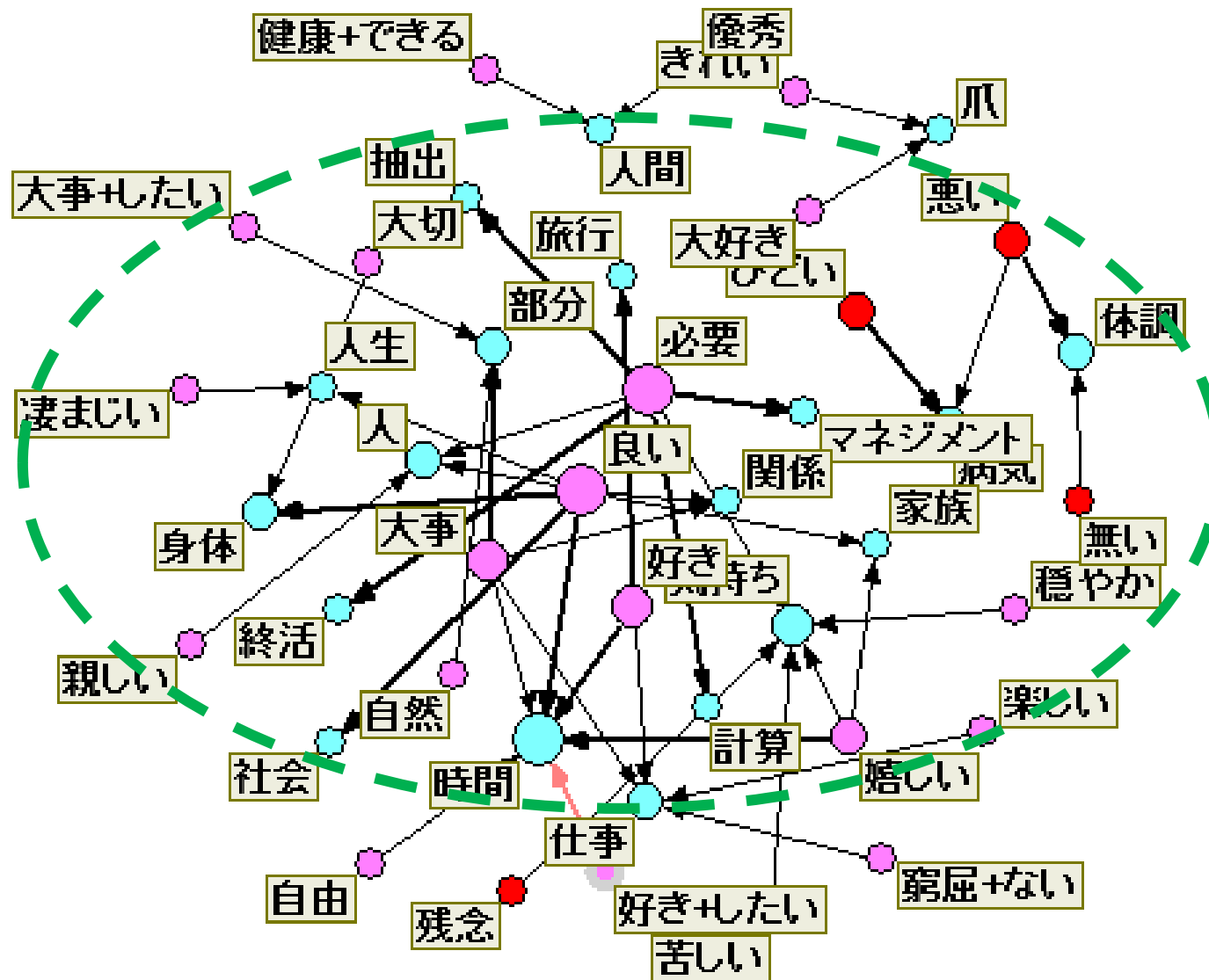
体調

気持ち



結果3:ことばネットワーク

評判抽出ネットワーク図

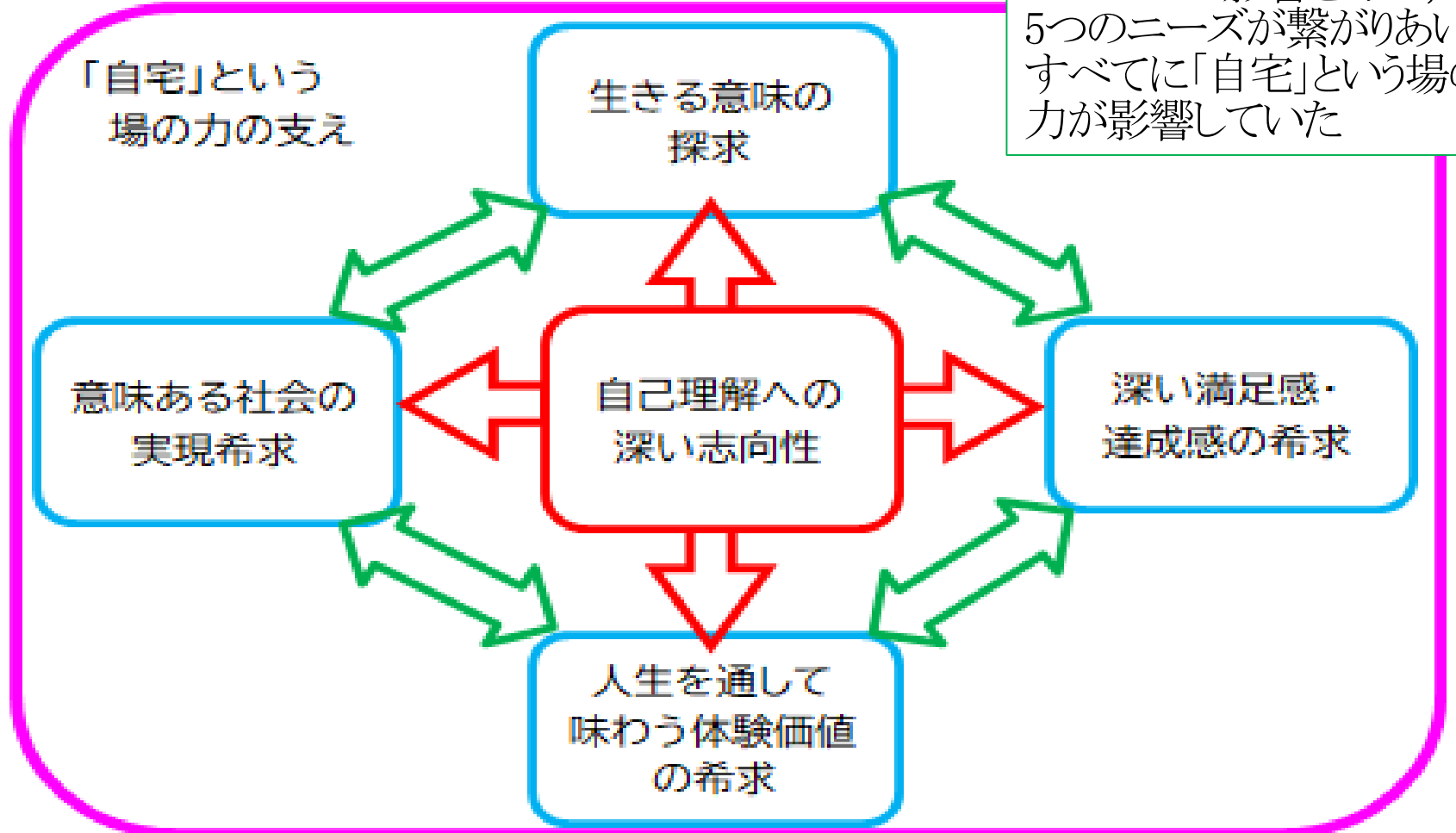


人生の出来事、自身の気持ち、満足などに繋がる気持ちや大事にしたいことが複数抽出されていた。

すさまじい体験、親しい人との繋がり、社会や自然の大切さ、自由な時間、嬉しい・楽しい・穏やかななどの時間や社会に向けた気持ちも多く表現され、抽出されていた。

結果：質的記述的分析

死を前に自己理解を深化させたいニーズが周りの4つのニーズに影響を与え、5つのニーズが繋がりあい、すべてに「自宅」という場の力が影響していた



自宅で終末期を生きる人のスピリチュアルニーズとして、【自己理解への深い志向性】【生きる意味の探求】【人生の深い満足感・達成感の希求】【人生を通して味わう体験価値】【意味ある社会の実現希求】の5つのカテゴリーを抽出した

考察

■ 終末期を自宅で過ごす人のスピリチュアルニーズとして、2つの分析方法により一致する点と異なる点があると考え、2つの結果の意味するところを検討した。

■ 2つの分析結果は、ほぼ一致していたと考える。

■ テキストマイニングによる分析では、全体で終末期に体験する気持ち、人生や生きる、生活、について抽出し、個々人の体験として、治療、時間、気づき、決める、役割、好き、辛い、マネジメントなどを抽出した。

■ 質的記述的分析では、死を前に自己理解を深化させたいニーズが周りの4つのニーズに影響を与え、5つのニーズが繋がりがあい、すべてに「自宅」という場の力が影響していた。

■ 異なる点としては、終末期という時間軸で体験していることを、人生の意味ある出来事として捉えるか、マイナスな出来事として捉えるかという捉え方の異なりであったと考える。

■ 終末期を自宅で過ごす人がスピリチュアルな面で体験している気持ちには、人生や生きること、大切な人や家族、彼らとの関係性や社会との繋がりに関係する言葉を多く表現していた。しかしことばネットワークにより、繋がりがなく個別に表現されたことと導き出された結果は、質的記述的分析法において、抽象度をあげていく中で統合しにくさがあったことの根拠が示されたと考えられる。

■ 本研究ではテキストマイニングと質的記述的分析結果は一致しており、表現された内容の幅広さや繋がりを確認するのに有効であった。しかし表現された言葉の深い意味を捉えるためには、質的研究法をあわせて用いる必要性が示唆されたと考える。

結論

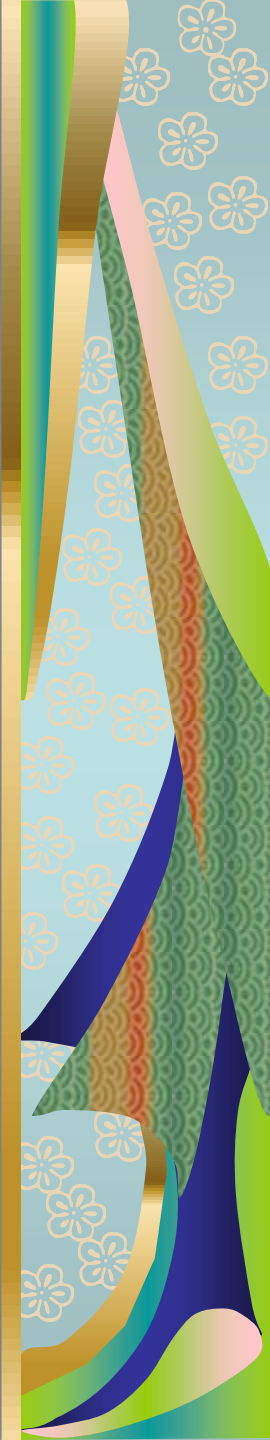
- 死を前に、終末期を自宅で過ごす訪問看護利用者のスピリチュアルニーズを、2つの研究方法を用いて比較検討した。その分析結果は、死を前にした気持ちや人生の出来事・生きる気持ち、体験や気づきなどであり、死を前に自己理解を深化させたい気持ちやニーズが繋がりにあること、自宅という場の力が影響しているものであり、ほぼ一致していた。
- 異なる点としては、終末期という時間軸で体験していることを、人生の意味ある出来事として捉えるか、マイナスな出来事として捉えるかという捉え方の異なりがあった。
- テキストマイニングと質的記述的研究を組み合わせて用いる研究方法は内容の広がりを確認することができた。言葉の深まりを確認するためには、質的研究法をあわせて用いる必要性が示唆された。

本研究の強みと限界, 今後の課題

- 本研究の強みは、本人の語りから抽出した内容を用いて、終末期を自宅で過ごす人のスピリチュアルニーズを、テキストマイニングと質的記述分析と比較分析できたことである。
- 本研究による分析によって、2つの結果がほぼ一致しており、終末期を自宅で過ごす人のスピリチュアルニーズとして多く表現されている内容が、どのように繋がりをもって表現されているのか、その一端を明らかにすることができた。
- 本研究結果より、終末期の生き方は多様であり、人の生きる本質でもあるスピリチュアルニーズを頻度や言葉のネットワークのみで推し量ることには限界がある。しかし、本研究のように複数の研究方法を組み合わせ、結果分析を重層的に実施し、より精選された根拠を示していくことは意義がある。
- 今後は、異なる事例を用いて結果分析を積み重ね、スピリチュアルニーズの内容をより具体的に明らかにすることや、本研究結果の比較内容を在宅スピリチュアルケアの介入研究に活かして検証することが課題である。

謝辞

- 本研究にご協力いただきました研究参加者の皆様やご家族，訪問看護師の皆様にご心より感謝申し上げます。
- 本研究実施に「Text Mining Studio for Windows. 6. 2,2013」を使用させていただきましたNTT Data Mathematical Systems さまに感謝申し上げます。
- 本研究にご指導いただきました人間環境大学看護学研究科西川まり子教授に感謝申し上げます。



引用文献

論文

- 日本ホスピス緩和ケア研究振興財団「遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究」運営委員会編集 志真泰夫, 恒藤暁, 森田達也, 宮下光令(2010)遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究J-HOPE, 日本ホスピス緩和ケア研究振興財団, 青梅社.
- 宮下光令(2010)ケアプロセスの評価, 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究(J-HOPE) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団, 14-22.
- 宮下光令(2008)日本人にとっての望ましい死, Pharma Medica, 26(7), 29-33.
- 宮下光令(2010)望ましい死の達成度と満足度の評価, 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究(J-HOPE), 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団, 24-28.
- 森田達也, 赤澤輝和, 難波美貴ほか(2010)がん患者が望む「スピリチュアルケア」89名のインタビュー調査, 精神医学 52(11), 1057-1072.
- 柏木哲夫(2007)終末期医療をめぐるさまざまな言葉. 総合臨床, 56(9), 2744-2748.
- 柏木哲夫(2007)スピリチュアルケア, 総合臨床, 56(11), 3091-3095.
- 窪寺俊之(2000)宗教的ケアと日本のホスピス-歴史的経過と評価, 神學研究, 47.125-153.
- 窪寺俊之(2012)スピリチュアルケアの実践家を育てる, 看護診断, 17(1), 41-46.
- 小楠範子(2004)語りにみる入院高齢者のスピリチュアルニーズ, 日本看護科学学会誌, 24(2), 71-79.
- 古瀬みどり(2013)訪問看護師が終末期がん療養者ケアで感じた困難, 日本がん看護学会誌:17(1), 61-66.
- 大園康文, 石井容子, 宮下光令(2015)訪問看護師が認識する終末期がん患者の在宅療養継続の障害, 日本がん看護学会誌, 29(1), 44-53.

書籍

- 恒藤暁, 内布敦子編集(2014)緩和ケア:医学書院
- キッペスW.(2001)スピリチュアルケア病む人とその家族・友人および医療スタッフのための心のケア:68-84, サンパウロ, 東京.
- 田村恵子, 河正子, 森田達也(2012)看護に活かす スピリチュアルケアの手引き, 青梅社.

引用文献

URL

- 厚生労働省（2019）第1部令和時代の社会保障と働き方を考えるP13：厚生労働白書，
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/19/dl/1-01.pdf>（2020年12月25日最終確認）
- 厚生労働省（2017年8月3日）資料2これまでの経緯と最近の動向 最期を迎えたい場所について：第1回人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会，
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000173560.pdf>（2020年12月25日最終確認）
- 厚生労働省（2019年9月6日）資料1在宅医療の中間見直しに向けた検討について：第9回在宅医療及び医療・介護連携に関するワーキンググループ，
<https://www.mhlw.go.jp/content/10802000/000545064.pdf>（2020年12月25日最終確認）
- 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団「遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に検する研究」運営委員会志真泰夫，恒藤暁，森田達也，宮下光令編集（2010）：遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究（J-HOPE），日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団，
- URL：https://www.hospat.org/assets/templates/hospat/pdf/j-hope/J-HOPE_all.pdf（最終確認2020年12月25日）
- 島内節（2016）日本エンドオブライフケア学会設立趣旨：日本エンド・オブ・ライフケア学会，
<http://endoflifecare.jp/society/greeting/>（最終2020年12月20日）